

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブソリューションサービス

東京都港区東新橋1-9-1

今週の注目材料=米物価と個人消費動向に注目

2025年1月13日

15日に12月の米消費者物価指数(CPI)、16日に12月の米小売売上高が発表されます。今月28日、29日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では金利据え置き期待が大勢となっていますが、3月もしくは5月の利下げについて意見が分かれている状況。1月にしても先月の半ばごろまでは30%程度利下げを見込む動きが見られており、指標の結果次第では現状の5%程度から期待が強まる可能性がある点も含め、注意が必要です。

まずは米CPI。前回11月は前年比+2.7%と10月の+2.6%から小幅ながら伸びが加速。食品とエネルギーを除いたコア指数の前年比は+3.3%と10月と同水準の伸びとなりました。前月比はともに+0.3%でした。いずれも市場予想と一致しています。

前年比の内訳をみると、ガソリン価格の低下が続いているものの、10月の-12.2%から-8.1%まで落ち着き、それに伴ってエネルギー価格も10月の-4.9%から-3.2%となりました。この結果が総合指数の押し上げに寄与しています。

コア指数では財部門が11か月連続でのマイナス圏となりました。ただこちらも下げ幅は-0.6%と10月の-1.0%から落ち着いています。自動車関連が依然弱く、新車が-0.7%と下げ幅は10月の-1.3%から鈍化も9か月連続のマイナス圏。中古車は-3.4%と10月と同水準で25か月連続のマイナス圏です。

サービス部門はCPI全体を100としたとき36.2%と3分の1以上を占める大きな項目である住居費が+4.7%と10月の+4.9%から伸びが鈍化したこともあり、コアサービス全体で+4.6%と10月の+4.8%から伸びが鈍化しました。住居費以外では2022年9月から二けたの伸びが続き2024年4月には+22.6%まで伸びが強まった自動車保険が、+12.7%と依然二けたも10月の+14.0%から伸びが減速しています。

こうした状況を踏まえて今回12月分の予想ですが前年比+2.9%と前回から伸びが加速する見込み。コア前年比は+3.3%と前回並みの伸びが見込まれています。11月から12月にかけて米国のガソリン価格は1ガロン当たり3.175ドルから3.139ドルへ小幅低下(全米全種平均/米エネルギー情報局調査)しましたが、比較対象元の2023年の数字が11月から12月にかけて3.443ドルから3.257ドルへ5.4%の下げを記録した分、全体では押し上げに作用するとみられます。理由がはっきりしていること、コア前年比の伸びが11月と同水準見込みとなっていることから、予想前後であれば影響は限定的となりそうです。予想を超える伸びを見せると、3月もしくは5月の追加利下げ期待が後退し、ドル高となる可能性があります。

続いて16日の12月米小売売上高です。11月は前月比+0.7%と市場予想の+0.6%を上回る伸びとなりました。10月、9月の数字もそれぞれ上方修正されており、力強さが印象的となりました。強かったのは自動車で前月比+2.6%となり、小売上全体を0.5%ポイント押し上げました。9月末から10月にかけての大型ハリケーンの被害を受けて自動車の買い替え需要が高まったことなどが背景にあります。自動車を除いた数字が+0.2%に留まっています。セールによる消費拡大の影響を受けた無担保小売りが+1.8%と好調、スポーツ・娯楽・書籍が+0.9%とこちらも好調となりました。やや弱かったのが外食、食品・飲料、衣料などです。

今回は自動車の伸びが少し落ち着くとみられ、総合の市場予想は+0.5%となっています。ただ水準的にはしっかりという印象。自動車を除いた数字も+0.5%が見込まれています。予想前後もしくはそれ以上の伸びが示されると、米個人消費の堅調さへの期待から利下げ期待が後退、ドル買いとなりそうです。

山岡和雅 | ミンカブソリューションサービシーズ 編集長

1992年チエースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。